

畑作技術情報

発行 令和8年5月22日

第4号

たいせつ農業協同組合

営農部 農産販売課

本所 営農センター 57-2357

支所 営農センター 87-4111

～止葉期の管理について～

1 現在の生育状況（きたほなみ）

3～4月が温暖に経過したため、きたほなみの起生期は3月30日（早5）、幼穂形成期は4月25日（早6）となっており、止葉期（全茎の40～50%の止葉が展開した日）も平年より早くなることが予測されます。ほ場の様子を観察し、追肥、防除のタイミングを逃さないようにしましょう。

表1 秋まき小麦生育期節

	起生期	幼穂形成期	止葉期	出穂期
本年	3月30日	4月25日	—	—
平年	4月4日	5月1日	5月22日	5月31日



2 止葉期以降の追肥

止葉期以降の窒素追肥は収量構成要素の千粒重を高める効果があります。幼穂形成期の追肥から2～3週間空け、きたほなみで窒素4kg/10a、ゆめちからで窒素6kg/10aを目安とし、生育量や地力を見ながら調整して追肥しましょう。茎数が多く、止葉直下葉の葉色が濃緑～暗緑色（SPAD 50以上）は、倒伏のリスクがあるため、追肥を控えましょう。

表2 品種・茎数における追肥の窒素量

(kg/10a)

品種	起生期茎数	起生期 (平年 4/4)	幼穂形成期 (平年 5/1)	止葉期 (平年 5/22)
きたほなみ	1,000 本/m ² 以上	—	6	4
	1,000 本/m ² 未満	4	4～6	4
ゆめちから	1,300 本/m ² 以上	—	6	6
	1,300 本/m ² 未満	6	6	6